

## 第1回フランジ付き六角ナット J I S 改正原案作成委員会議事録（案）

1. 日 時：平成25年7月23日（火） 14:00～17:00
2. 場 所：機械振興会館6階62号室
3. 出席者（順不同・敬称略）

氏 名	所 属	氏 名	所 属
川井 謙一	横浜国立大学（委員長）	朝山 恒男	（一財）日本規格協会
山岸 章	（株）サトーラシ（幹事）	来 住 健	（株）いすゞ自動車
大橋 宣俊	元湘南工科大学	今西 崇之	（有）今西工業所
根本 俊雄	元東京大学	大磯 義和	日本ねじ研究協会
松井 洋二	経済産業省	中林 賢司	日本ねじ研究協会

### 4. 配付資料

- 資料1 実施計画（案）
- 資料2 フランジ付き六角ナット J I S 改正原案作成委員会名簿
- 資料3 JIS B 1190 フランジ付き六角ナット現行規格
- 資料4 ISO 4161:2012 ( Hexagon nuts with flange, style 2--Coarse thread)
- 資料5 ISO 10663:2012 ( Hexagon nuts with flange, style2-- Fine pitch thread )
- 資料6 SO 4161:1993 ( Hexagon nuts with flange--Coarse thread)
- 資料7 ISO 10663:1993 ( Hexagon nuts with flange-- Fine pitch thread )
- 資料8 JIS B 1190 フランジ付き六角ナット改正第1次案
- 資料9 図1, 図A1, 表JA.7の附属図及び表JA.10の附属図の修正案（当日配付）

### 5. 議事

#### 5.1 委員長及び幹事の互選

出席委員の自己紹介の後、委員長及び幹事の互選を行い、委員長に川井委員を、幹事に山岸委員をそれぞれ選出した。

#### 5.2 実施計画案の説明

事務局から、資料1の実施計画案について説明があり、以下の方針で原案作成を行うことが確認された。

- ①JIS B1190の対応国際規格であるISO 4161及びISO 10663が、2012年に改正されたことに伴いJISとの整合を図るため改正する。

主な改正点は、

- ・適用範囲をスタイル2のナットに限定する。
- ・製品仕様の仕上げ一皮膜と表面欠陥とを分けて規定する。

- ②審議回数は、3回程度とする。第2回委員会及び第3回委員会をそれぞれ10月18

日（金），12月12日（木）に予定する。

③ISO 4161 及び ISO 10663 によらないフランジ付き六角ナットについて規定している附属書については，自動車等の分野でまだ利用されているという点や当該附属書に則った製品がまだ市場に流通している現状を踏まえて，今回は，残すこととする。次回の改正時には，あらためて当該附属書の必要性を精査して存続するか廃止するかを決めることを確認した。

### 5.3 JIS B 1190 改正第1次案（資料8）の審議

#### 1) 1 適用範囲

- ・ 1行目の（スタイル2）を削除する。
- ・ 2行目の“それらの要求”以下を“受渡当事者間の協定によって選択できる。”に修正する。
- ・ 注記1の文章を本文に入れて，注記1を削除する。
- ・ 注記2を注記に修正する。
- ・ ISO/IEC Guide 21 を ISO/IEC Guide 21-1 に修正する。

#### 2) 2 引用規格

・ 本文の2行目から3行目にかけての“のうちで，西暦年を付記してあるものは，記載の年の版を適用し，その後の改正版（追補を含む。）は，適用しない。西暦年の付記がない引用規格”を削除する。

#### 3) 3 種類

- ・ 表1の欄中の“（スタイル2）”を削除する。

#### 4) 4 形状・寸法，製品仕様及び製品の呼び方

- ・ タイトルを“形状・寸法，製品仕様及び製品の呼び方の例”に修正する。
- ・ 1行目の“製品の呼び方”を“製品の呼び方の例”に修正する。
- ・ 表2の欄中の“（スタイル2）”を削除する。

#### 5) 5 表示

- ・ 5.1 製品の表示の規定文を“この規格に適合した製品の表示は次による。”に修正する。

#### 6) 図1

・ “注記”を削除する。文章は残す。

・ 注<sup>b)</sup>～注<sup>d)</sup>の角度範囲の表記を数式でなく文章に変更する。

・ “0.75°”が附属書 JA の中に出てくる座面の傾きとは異なることを示すために，この角度が意味する名称をつけ，説明を注として追加する。なお，この注については，下線を施し，ISO にはないことを示す。

#### 7) 表3

- ・ ねじの呼び M10 の  $d_a$  の最大値を“10.8”から“10.80”に修正する。また M16 の， $r$  の最大値を“1”から“1.0”に修正する。
- ・ 表6についても表3での検討結果をを反映させる。

8) 表 4

- ・“機械的性質の適用スタイル”を復活し、下線を施す。
- ・スタイルの区分欄には、“スタイル2”を入れる。

9) 表 5

- ・タイトルを“製品の呼び方（並目ねじ）”から“製品の呼び方（並目ねじ）の例”修正する。
- ・表下の注記に下線を施す。

10) 表 7

- ・ねじの適用規格として、JIS B 0205-4を追加する。
- ・“機械的性質の適用スタイル”を復活し、下線を施す。
- ・スタイルの区分欄には、“スタイル2”を入れる。

11) 表 8

- ・タイトルを“製品の呼び方（並目ねじ）”から“製品の呼び方（並目ねじ）の例”修正する。
- ・表下の注記に下線を施す。

12) 附属書 A

- ・（規定）から（参考）に修正する。

13) 附属書 J A

- ・側線を外す。
- ・A.4.1の文中に出てくる“保証荷重応力”をJIS B 1051（用語）で定義をチェックして適切な用語に置き換える。
- ・表 JA.2 下の注 a)の文中に出てくる“荷重”を“力”に置き換える。
- ・A.10.1.1のタイトル“保証荷重試験”の“保証荷重”をJIS B 1051（用語）で定義をチェックする。
- ・表 JA.10 の付図上段右の図中の“15° ~30°”表示をJIS 製図に従って変更する。

6 その他

1) 今後の進め方

- ・今回の審議結果を基に第2次案を作成して、次回委員会開催前に各委員に送付する。
- ・第1次案についても新たに気付いた点があれば、事務局までコメントを提出すること。

2) 次回及び次々回の委員会開催予定

次回及び次々回の委員会の開催日時をそれぞれ平成25年10月18日（金）及び平成25年12月12日（木）の14時からとした。

以上